

ありがとうなんてかっこわるい

静岡県 焼津市立焼津西小学校 四年

足木 奏心あしき かなと

ぼくのお母さんは、はたらき者でとてもやさしいです。いつもぼくと弟のことを考えてくれています。

そんなお母さんのことを何度も何度も泣かせてしまっています。今、考えてみるとかたづけをしなかったり弟とけんかをしたりとたわいもないことだったりしますが、そんな時でもお母さんは一回一回全力投球でしかります。しかりながらなみだがあふれ出てしまうのだと思います。お母さんが泣くとぼくの口からは、『また泣くのかよ。』ということばが出てしまうことがあります。少し時間がたつと『ああ、また泣かせてしまった。』としゅんとしたことがむねいっぱいに広がってきます。それなのに、ぼくの性格なのか、かっこわるくてごめんなさいを声に出して言えないのです。かんたんなことばなんです、なかなかすうつと出てこないのです。

よくお母さんはよくに向かつて
「かあ君、大好き。」

と言ってきました。顔がくちゃつとなつて、心がウキウキしてしまっています。ぼくも、お母さんのことが大好きです。たくさん好きなどころがありますが、大きく分けて三つあります。

一つ目は、おいしいごはんを作ってくれるところなんです。ぼくのがてなものは、少しにしてくれたり、大好きなものは、いっぱいもりつけてくれたりします。ぼくがのこしたり、

「これ、がてー。」

と言って食べなかったりしたときは、もう作りたくないという気持ちになったことが何度もあったと思いますが、それでも十年間、くふうしながらおいしいごはんを作ってくれたことにほくはとても感しゃしています。

二つ目は、いっぱいの愛情です。お母さんは、お仕事や家事でつかれているのにぼくにたくさんさんの愛情をそそいでくれます。たとえば、ぼくが落ち込んでいるときに、

「だいじょうぶだよ。次ががんばればいいじゃん。」

と言つてなぐさめてくれたりきゅうつとだきしめてくれたりするので。

最後にぼくが一番感しゃしていることです。それは、ぼくを生んでくれたことです。ぼくを生んでくれなかったら、今みたいな幸せなくらしがでなかつたと思います。大好きなサッカーを思い切りできるのもお母さんが生んでくれたからです。

ふだんはずかしくてなかなか言えない感しゃのことはをずつと大事にして、何よりお母さんのことを大切にしていきたいです。そして、かっこわるいという気持ちを何とかふきとばし、ぼくの口からも直せつ感しゃの気持ちをつたえようと思います。「ありがとう。お母さん。」